

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1331
2. 授業担当教員	飯島 和美		
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5. 開講学期	春期、秋期
6. 履修条件・他科目との関係	ジェンダーの問題に関心があること		
7. 講義	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする公司向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心をもち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。		
8. 学習目標	<p>本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心をもち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○授業への取組の深さと理解度を確認し、疑問や意見を届けてもらうため、毎回、授業の最後にリアクションペーパーの記入、提出を求める。</p> <p>○中間レポートとして、教材第5章「れんげ草の庭」一つの人生で人は生き直すことができる」の精読、グループワークを踏まえ、それらを通じて考えたことを書きまとめるレポート課題を課す。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書は使用せず、講義プリントと配布資料による。</p> <p>○教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内田伸子、見上まり子『虐待をこえて生きる 負の連鎖を断ち切る力』新曜社、2010、1900円＋税。 ・内閣府、男女共同参画連携会議：『ひとりひとりが幸せな社会のために パンフレット 2020』 .indd (gender.go.jp) ・内閣府男女共同参画局『令和2年度男女共同参画白書』2020。 https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/gaiyou/pdf/r02_gaiyou.pdf ・厚生労働省『職場のセクシュアルハラスメント・妊娠・出産等ハラスメント防止のためのハンドブック』2018。Print (mhlw.go.jp) <p>●参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大沢真理『企業中心社会を超えて：現代日本を「ジェンダー」で読む』岩波現代文庫、2020。 ・治部れんげ『男女格差後進国の衝撃：無意識のジェンダーバイアスを克服する』小学科新書、2020。 ・清田隆之『さよなら俺たち』スタンド・ブックス、2020。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー」の概念とその意義を理解できたか。 ・現代社会に内在する「ジェンダー」の課題に関心をもち、それに対する自らの意見を深めることができたか。 ・「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析、考察することができたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題 (中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価 (レポート・試験等) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	女でも男でもそのほかでも、皆性別を帯びた存在であり、ジェンダーの当事者です。身近な経験・できごとから国際問題、社会問題まであらゆることがらをジェンダーの視点から読み解き、これからの生き方・働き方、これからどういう社会をつくっていききたいかを自分ごととして一緒に考えましょう。		
13. オフィスアワー	授業の前後、E-mail : naltok@outlook.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・科目のオリエンテーション ・「ジェンダー」とは何か一二様の定義	事前学習	『ひとりひとりが幸せな社会のために 2020 年度データ』を通読する。
		事後学習	ジェンダーとは何かについて振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第2回	・戦後日本社会のジェンダー構造 ・“製造装置”としての性別分業①社会的労働と私生活労働の性別分業	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』I 第1章・第2章を通読する。
		事後学習	戦後日本社会のジェンダー構造と、その核である性別分業について振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第3回	・“一次生産物”としての社会的力 (社会資源) の男性偏在	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』I 第3章・第4章を通読する。
		事後学習	社会的力の男性偏在について振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。

第4回	・二次生産物としての女性問題：女性に対する暴力を例に	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』I第5章・第6章を通読する。
		事後学習	社会的力の男性偏在が女性問題を生むしくみについて振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第5回	・家族内暴力①ドメスティック・バイオレンス（DV）—どうい問題か、配偶者間DVとデートDV、調査結果にみる被害/加害の実態	事前学習	国連『女性に対する暴力の撤廃に関する宣言』1993、を通読する。
		事後学習	ドメスティック・バイオレンスがどうい問題であるのかを振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第6回	・家族内暴力①ドメスティック・バイオレンス—法律・行政・社会的な対策、被害者の保護と回復支援	事前学習	課題教材『虐待をこえて生きる 負の連鎖を断ち切る力』第5章「れんげ草の庭一つの人生で人は生き直すことができる」を精読する。
		事後学習	DV被害者の保護と回復支援、予防のためのしくみについて振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第7回	・家族内暴力②子ども虐待—どうい問題か、調査結果にみる被害実態	事前学習	課題教材『虐待をこえて生きる 負の連鎖を断ち切る力』第5章「れんげ草の庭一つの人生で人は生き直すことができる」を精読する。
		事後学習	子ども虐待がどうい問題であるのかを振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第8回	・家族内暴力②子ども虐待—法律・行政・社会的な対策、被害児の保護と回復・発達支援、“欲求の溜め”	事前学習	課題教材『虐待をこえて生きる 負の連鎖を断ち切る力』第5章「れんげ草の庭一つの人生で人は生き直すことができる」を精読する。
		事後学習	“欲求の溜め”の作り直しを核とする虐待被害児の保護、回復・発達支援について振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第9回	・グループワーク「れんげ草の庭一つの人生で人は生き直すことができる」にみる当事者の境地	事前学習	課題教材『虐待をこえて生きる 負の連鎖を断ち切る力』第5章「れんげ草の庭一つの人生で人は生き直すことができる」を精読する。
		事後学習	グループワークを踏まえ、課題レポートを作成・提出する。
第10回	・ハラスメントについて—どうい問題か、日本におけるハラスメント概念の形成と問題史、防止と発生後の対応	事前学習	『職場のセクシュアルハラスメント・妊娠・出産等ハラスメント防止のためのハンドブック』を通読する。
		事後学習	ハラスメントについて—どうい問題かについて振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第11回	・ケアとジェンダーケアと“ケア役割”、役割としてケアを担うということ、家事労働の女性偏在はなぜ問題か	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』I特集を通読する。
		事後学習	家事労働の女性偏在がなぜ問題なのかを振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
第12回	・性別について公正な社会のすがた①—国連『女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約』1979、『男女共同参画社会社会基本法』1999に依拠して	事前学習	『女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約』、『男女共同参画社会社会基本法』を通読する。
		事後学習	国際および国内の根拠法規のめざす社会像を振り返り、リアクションペーパーを作成、提出する。
3回	・性別について公正な社会のすがた②—性別分業から個性と状況に応じた分業へ、女らしさ・男らしさから人間らしさとその人らしさへ	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』第2部第3章・第4章を通読する。
		事後学習	講義を踏まえ、めざす社会のあり方の自身のイメージについて、リアクションペーパーに記入し、提出する。
第14回	・ワーク・ライフ・バランスとジェンダー	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』I(参考)・(コラム)を通読する。
		事後学習	講義を踏まえ、自身が将来、どのようなワーク・ライフ・バランスを採りたいかについて、リアクションペーパーに記入し、提出する。

第15回	・家事労働のゆくえ—4つの手段の組み合わせへ	事前学習	『令和2年度版男女共同参画白書』第2部第2章を通読する。
		事後学習	講義を踏まえ、家事労働のゆくえについて、振り返り、リアクションペーパーに記入し、提出する。
期末試験：データを提示し、そこから読み取れること、わかることを自分なりに書きまとめる内容の試験を行います。			